

各校における対応例

- ◎ 普段から保護者・地域・関係機関とクマが出没した際の対応を協議しておく
 - ・ 校舎近辺の草木を切って、明るく、見通しを良くしておく(●)
- ◎ 巡回・立哨・出迎え等の時間や役割分担、位置等を決めておく
- ◎ 保護者への連絡(一斉メール等)
 - ・ 保護者による付き添いや見守り等の依頼など(●)
- ◎ スクールガードへの協力依頼
- ◎ 出没場所が学校近くの場合は・・・
 - ・ 朝・夕の大音量での放送による追い払い
 - ・ 雷管・爆竹・ロケット花火による追い払い
(近隣住民への周知が必要)
 - ・ 1人で行動しないで、複数体制で対応する
 - ・ 業間時間や昼休みに、子どもが校庭にいる場合は、音楽を流すと共に職員が観察する

子どもへの指導例

- ◎ 1人で行動しないで、友達と一緒に行動する
- ◎ 集団登下校の指導
- ◎ 携帯品の指導
 - ・ クマ鈴(持っている人と一緒に行動)(●)
 - ・ 空のペットボトル(パコパコという音が嫌い)
- ◎ 食べ物を持ち歩かない
- ◎ クマを見かけたら、どこでもいいので近くの民家に保護をお願いすること
- ◎ 屋外での遊びの指導(山や藪などでの遊びは控えること)
- ◎ クマが近くにいるサインがあったら、その場から離れる
 - ・ 糞がある(人間と同じかちょっと大きめ)
 - ・ 足跡がある(幅は成獣で7~13cm)
 - ・ クマ棚がある(樹上に折った枝を集めたもので、枯葉が付いていることで鳥の巣と区別)
 - ・ クマ剥ぎ(スギやヒノキの根本から2mぐらいまで樹皮が剥かれた痕跡)

クマの習性(猟友会より)

- 6月から7月頃までが多く出る。
- トウモロコシが好きで、桑の実にも来る。
- 畑に出てきたクマに襲われることがある。
- エサを求めて移動する。
- 熊の繁殖期で、オスが頻繁に出歩く。
- 草木を切って明るくするとよい。熊は暗いところに入る。
- 脅すと、怖がって襲ってくる。
- 子連れの場合、何も無いところに出て、子グマが遊んでいることがある。
- 野生動物は、夜行性で日中には出ない。朝夕に目撃されやすい。
- 行動範囲が広い。
- 夏の暑いときは、川で遊んでいることがある。
- 嗅覚がものすごく敏感で、においにつられて来ることもある。
- もしも、クマに出会ってしまったら
 - ・ 背中を見せて走って逃げないで(本能的に襲ってくる)ゆっくりと後ずさりして離れる
 - ・ カバンなどを持ち物を置いて、それにクマが気を取られている隙に逃げる
 - ・ クマが興奮するので、大声で叫んだり、石や棒などを投げつけない
 - ・ クマが攻撃してきたら、両手で顔や頭をカバーして防御する